

マルクスに於ける唯物論の限界……………土田杏村
現象學に於ける超越の問題……………務臺理作
製作の過程としての意味すること……………植田壽藏
形而上學的的時間……………九鬼周造
Die Mitte から das Mittel へ……………山内得立
薦新賽神の行事……………赤松智城
シエリングの後期哲學への移り行きに就いて……………赤松元通
カントに於ける「我の自覺」……………天野貞祐
理論と實踐……………木村素衛
宗教的目的論と其止揚……………菊池慧一郎
精神のモナス的形態……………篠原助市

彙

報

朝永博士の御退職

京都帝國大學教授朝永三十郎先生は本年二月還暦に達せられ、知友門下の諸氏より祝賀會を受けられたが、ついで三月退職せられた。博士は本會創立以來多年本會の爲に種々御盡力を賜はつたことは感謝にたへないことである。遺憾ながら、今度大學教授の職を退かれるにつけ本會規定により

本會役員をも退かれることゝなつた。

本會は博士が益々御健康であらせられて、愈々多く學界の爲に盡されんことを祈ると共に、今後も陰に陽に本會の爲めに御援助を賜はらんことを偏にお願する次第である。

倫理學讀書會

去る五月二十二日金曜演習室にて午後三時より左の發表あり。

E. Adickes; Kantsche von doppelten Affektion unseres

Ich als Schlüssel zu seiner Erkenntnistheorie.

湯淺南海男君

同二十九日金曜同演習室にて午後三時より左の發表あり。

Brentano; Vom Ursprung sittlicher Erkenntnis.

龍野健治郎君

六月十二日金曜倫理研究室にて午後三時より左の發表あり。

Troeltsch; Ethik und Geschichtsphilosophie.

坂田吉雄君

倫理學研究會例會

六月十九日金曜京大藥友會館にて午後七時より左の講演あり。

精神科學的經濟學について

經濟學部教授 石川興二君

心理學讀書會

五月二十二日 金曜午後三時より心理學教室にて左の發表あり。

Umwirkte Scham.

岡 原太郎君

五月二十九日 金曜同室にて午後三時半より左の發表あり。

Pact Human Speech.

根 津 義雄君

六月十二日 金曜同室にて午後三時半より左の發表あり。

遊戲について

林 一 清君

六月十九日 金曜同室にて午後三時半より左の發表あり。

双生児に關する諸問題 理學部教授 胸 井 卓君

教育學讀書會

六月二日 火曜午後一時より教育學研究室にて左の發表あり。

毛利元就の遺誡について

森 澤 四郎君

六月九日 火曜午後一時より京都府師範學校附屬小學校の授業參觀

六月十六日 火曜午後一時より教育學研究室にて。

ナトルプの社會的教育學

永 山 信君

ペスタロッチの Idee der Elementarbildung.

小 原 次夫君

美學會例會

五月二十七日 水曜京大樂友會館にて午後六時半より。

カントに於ける Doktrin 及び Kritik の記錄

中 井 正 一君

美學會例會

六月二十一日 日曜午後七時より樂友會館にて

Max Dessoir, K. P. Morris als Aesthetiker

について

藤 田 貞次君

美學會讀書會

五月五日 午後一時より樂友會館にて 映畫史及びその諸問題

六月二日 火曜午後七時樂友會館にて

樣式論序説

久 富 貢君

西哲會

六月十二日 金曜樂友會館にて午後六時半より。

カントの世界觀

石 塚 君

印度佛教學會

六月十七日 水曜樂友會館にて夜六時半より。

支那宗教としての佛教の一面

塚 本 善雄君

寄贈圖書

ヘーフラー著

倫理學概論

竹下直之譯

理想社出版部刊
定價 貳圓

フオルレンデル著

帝國大學新聞 昭和六年五月二十五日

丁酉倫理會講演集	昭和六年六月	三四四輯
哲學雜誌	同	五三二號
理想	六月	二四號
倫理研究	同	一四號
社會學徒	六月	五卷六號
學園日記	同	二三號
教育問題研究	六月	六〇號
奈良縣教育	同	二一八號
生理學研究	同	八卷五號

寄贈雜誌新聞

西洋哲學史 第三卷	栗田賢三 吉野源三郎共譯 古在由重	岩波書店刊 定價貳圓七拾錢
心理學概說 城戸幡太郎著		岩波書店刊 定價貳圓七拾錢
國際ヘーゲル聯盟日本版		
百年忌記念ヘーゲルとヘーゲル主義	西田幾多郎外九氏執筆	岩波書店刊 定價貳圓七拾錢
美學研究 第五	東京帝大美學談話會編	第一書房刊 定價壹圓